世界に日本の文具を

全日本文具協会総会

活動をさらに活発化して

一般社団法人全日本文具協会（石川真一会長）は、6月3日午後5時から東京・中央区のロイヤルパークホテルで、「第12回定時総会」を開催した。

総会に先立ち、石川会長は「会長に就任してこの1年間は会員各位の支援を得ながら進めてきた。2年目を迎え、活動を活発化してお役に立てる会にしていきたい」と挨拶。

挨拶する石川会長

この後、石川会長を議長に選任、議事録署名人に開明・田中葉子、サンスター文具・小林太一の両氏を指名し、承認。会員61人中出席57人（本人出席39人、委任状18人）の出席により総会成立を報告、議案審議に入った。

第1号議案・令和5年度事業報告、第2号議案・同年度決算報告と監査報告、第3号議案・令和6年度事業計画案、第4号議案・同年度予算案、第5号議案・理事補選などの上程議案を原案通り承認した。

新年度事業計画では、①文具に関する調査研究事業②文具に関する研修会及びセミナー等開催事業③文具に関する国際見本市の開催事業④内外関係機関等との交流及び協力など、前年度事業を踏襲して実施。

グリーン購入法における文具類の判断基準に関する調査研究において、令和6年度は「認定プラスチック使用製品」の優先調達及び紙製品に関する判断の基準の見直しを始め、文具類全体の見直しについて環境省と協議を行う。また、「グリーン購入法（文具類）の手引（第22版）」を作成、同協会ホームページへの掲載により、国等の調達担当者、消費者及び文具・事務用品製造事業者への情報提供を行う。

SDGsに関する調査研究については①CO2排出量の削減②カーボンフットプリントの普及③プラスチック削減④サスティナビリティ情報の開示⑤会員向け各種勉強会の開催、などを主体に進める。

また、文具に関する国際見本市「第35回国際文具・紙製品展（ISOT2024）」（7月3～5日、東京ビッグサイトで開催）への特別後援を継続し、会期初日の3日には海外出展社に対して模倣品の実態調査を実施する。

理事補選では、代表者の交代により、藤﨑文男氏（バイロットコーポレーション）、森靖澄ベンジャミン（カール事務器）、和田優氏（ぺんてる）の3氏が新任した。

自信もって世界へ進出

東京文工連が定時総会開催

一般社団法人東京文具工業連盟（長谷川豊会長）は、6月3日午後4時から東京・中央区のロイヤルパークホテルで「第12回定時総会」を開催した。

総会に先立ち、長谷川会長は「日本の文具の品質、性能は世界に高く評価されている。当組合は文具製造者による団体であり、自信をもって世界へ進出していきたい。組合では業務に役立つ講演会や説明会、セミナーを開催しており、社員の方にも参加願いたい」と挨拶。

挨拶する長谷川会長

この後、議長に長谷川会長を選任、議事録署名人にサンスター文具・小林大地、開明・田中葉子両氏を指名、承認。会員42人中37人（本人22人、委任状15人）の出席で、総会成立を報告、議案の審議に入った。

第1号議案・令和5年度事業報告、第2号議案・同年度決算報告、第3号議案・同年度公益目的支出計画実施報告と監査報告、第4号議案・令和6年度事業計画案、第5号議案・同年度予算案、第6号議案・理事補選の件などを上程、いずれも原案通り承認した。

令和6年度事業は、①文具の生産・貿易及び流通に関する調査研究事業②文具の生産者の資質向上に関する研究会・講演会事業③文具の普及啓蒙活動④関係官公庁及び関係団体との連絡と折衝に関する事業、などを主体に進める。

また、文具に関する国際見本市「第35回国際文具・紙製品展（ISOT2024）」（7月3～5日、東京ビッグサイトで開催）への特別後援を継続し、会期初日の3日には海外出展社に対して模倣品の実態調査を実施する。

理事補選では、代表者の交代により、藤﨑文男氏（バイロットコーポレーション）、森靖澄ベンジャミン（カール事務器）、和田優氏（ぺんてる）の3氏が新任した。

懇親深めて情報交換

愛知卸総会　上程諸議案を承認可決

【メイブン発】愛知文紙事務器卸協同組合（青山英生理事長）の第73回通常総会は、5月14日午後4時より中区錦の「名古屋観光ホテル」で開催し、上程諸議案を承認可決した。

総会は市岡則幸理事の司会で始め、物故者に黙祷を捧げた後、大附英夫副理事長が開会の辞を述べ、青山理事長が多数の出席を謝した後「本日は名古屋文具事務用品協同組合との同日開催としている。先行して私どもが（総会を）行い、後ほど合同で懇親会を催す。さて当業界は卸業界だけでなく大変厳しいものがある。その中でいったい組合で何が出来るかと自問自答しているが、デジタル時代でもフェイストゥフェイスで懇親を深めて情報交換を行い、そこから何かが生まれるということも組合活動として大切だと思っている」と挨拶。

スムーズに審議した愛知卸総会

組合員16社中、本人出席9、委任状4の計13の議決権数と、賛助会員27社中23名の出席で総会成立を報告した後、青山理事長が議長に就いて審議を進め上程諸議案承認可決した。

このうち事業計画では、8月に名文事協組との共催による納涼懇親会、11月下旬に懇親忘年会、令和7年前年度事業を踏襲して実施。

このうち、文具の生産・貿易及び流通に関する調査研究では、同連盟が原案作成団体となっている文具の日本産業規格（JIS規格）のうちステープラ、ステープラ用つづり針及び事務用紙断裁器の3規格について見直し調査。

東京文具工業連盟の定時総会

文具の生産者の資質向上に関する研究会・講演会では、全日本文具協会との講演会事業を相互協力。

文具の普及啓蒙活動では、児童福祉施設への文具類寄贈や東京都生徒児童発明くふう展（東京都主催）への協賛・協力、東京都伝統工芸品に指定されている「江戸筆」の振興、ホームページによる情報提供などの事業を柱に実施。ホームページはタブレット対応…などをそれぞれ実施する予定。

理事補選では、代表者の交代により、森清澄ベンジャミン氏（カール事務器）、和田優氏（ぺんてる）が新任した。

マレーシアに直営店

コクヨが東南アジアに初進出

1月7日に名古屋ガーデンパレスで文紙関連団体合同賀詞交歓会開催…などが発表された。欠員役員補充の件では、異動となった軍司健美氏（三菱鉛筆中部販売）に替わり、同社の西山智文氏の選任が承認された。

グローバルへの領域拡張を進めるコクヨ株式会社（黒田英邦社長、東京都）は、コクヨ文具の直営店「campus STYLE（キャンパススタイル）」を、上海に続いて、東南アジア初となるマレーシアに5月25日、1号店を出店した。

SNSなどを通じた自己表現ニーズの高まりにより付加価値文具市場が拡大する中、同社のステーショナリー事業は、顧客接点の強化によって市場を捉え、国内のみならず、グローバルへの領域拡張を進めている。特に、近年はアジア圏の経済成長の影響を受け学生の勉強熱が高まっていることから、2022年と2024年に上海に直営店をオープンした。

コクヨのマレーシア1号店

マレーシアでは1997年の現地法人立ち上げ以来、主にオフィス空間構築事業、家具の製造・販売を行っている。その後、2022年に調査や2023年にコクヨ文具のPOP UP SHOPを開催して好評を博し、今回の直営店オープンとなり、同国でのステーショナリー事業の本格スタートとなった。

マレーシア1号店は、首都クアラルンプール近郊のショッピングモール「ザ・スターリング」内に出店。

店内は、白を基調とした壁面にコクヨの文具が彩られ、オープン初日は約1000種類の商品が並べられた。

7月9・10日に開催

20周年迎えた文紙フェア

ステーショナリー情報委員会（口分田尚志代表幹事）は、7月9、10日、東京・柳橋の共和フォーラムで、「第38回2024年夏の文紙フェア」を開催する。

今回は、「Something New新しさの創造。見つけよう！自分だけの推し文具～ありがとう20周年～」をテーマに、出展社30社が秋から年末商戦へ向けて新製品やおすすめ商品を一堂に紹介。

また、初の試みとして7月3～13日に都内で集中開催する文具ウィーク「TOKYO STATIONERY WEEK2024」（東京文具週間）と連携して開催。今回、20周年記念として、スタンプラリーの特賞本数を倍増するほか、バリスタが提供するカフェコーナーを設ける。

記者会見する役員

会期中のイベントは、来場者と出展社の投票で選ぶ「第29回文紙フェア大賞コンテスト」、好評の「スタンプラリー」を実施。「文紙フェア大賞コンテスト」は、新製品部門とイチ推し商品部門の2部門を設けて、投票により金賞・銀賞・銅賞の各賞を選出して、2日目の10日午後3時半から受賞商品の発表と表彰式を行う。

【出展社の顔ぶれ】

アスカ、エスディアイジャパン、エンゲルス、オート、オープン工業、オルファ、北星鉛筆、木野瀬印刷、共栄プラスチック、クルーズ、コレクト、ササガワ、サンケーキコム、サンビー、シード、新朝日コーポレーション、デビカ、寺西化学工業、東京画鋲製作所、トーヨー、日本理化学工業、ニュークイン、ヒサゴ、ヒノデワシ、ビュートンジャパン、文運堂、ベロス、墨運堂、マグエックス、マルミア。

【役員体制】

代表幹事＝口分田尚志（コレクト）会計事務を兼任

副代表幹事＝大山隆久（日本理化学工業）、林俊孝（デビカ）

幹事＝山本忠利（サンビー）、森田浩揮（アスカ）、杉谷龍一（北星鉛筆）、山路浩太郎（ベロス）新

事務局＝岩田順司（オープン工業）、中澤誠人（ニュークイン）、豊澤健（新朝日コーポレーション）、寺西廣記（NEXT switch）、吉開征信（ニュークイン）

なお、2025年新春文紙フェアは1月8、9日、夏の文紙フェアは7月9、10日、共和フォーラムで開催予定。

小売5団体が合同研修会

丸天産業やプラス見学

大阪文具事務用品協同組合（金澤利治理事長）、神戸文具事務用品協同組合（木下直樹理事長）、京都文紙事務用品組合（島嘉秀理事長）、愛知県文具事務用品団体連合会（住田宏会長）、はりま文具事務用品協同組合（竹位賢二理事長）の小売5団体は、5月31日に初の合同研修会を名古屋で開催した。

当日はメーカー、卸など18社・43名が参加し、名古屋・丸天産業の新社屋と、クリアトーレ名古屋（PLUS）の見学会の後、名古屋勤務のメーカーも参加して懇親会を行い種々歓談した。

懇親会の模様

バズる筆記具　三菱鉛筆市川氏が岡山大で講演

三菱鉛筆株式会社リサーチフェローの市川秀寿氏は、4月24日、国立大学法人岡山大学津島キャンパスの共育共創コモンズ（OUX）で、「バズる筆記具年間1億本以上JETSTREAM開発の軌跡・現在・そして未来」と題した講演を行った。

今回の講演は、学術研究院環境生命自然科学学域情報セキュリティ工学研究室が主催、岡山大学ユネスコチェア・岡山大学病院聴覚支援センター共催、岡山大学DS（データサイエンス）部企画により開催され、大学生、大学院生、職員、一般など約80人が聴講した。

講演する市川氏

講演では、120円のボールペンに込めた想いや世に出すまでの苦労にも触れた。加えて、先行者有利となるための条件や、時代とともに変化していく消費者ニーズ、社会に対しての環境対応や教育への貢献をどのように満たしていくかなど、課題解決への取り組みなども披露、それぞれの参加者の学びにも繋がる貴重な講演となり、盛況のうちに終了した。

法人クリーニング市場に進出

O…プラス

プラス株式会社は（今泉忠久社長）は、白洋舎と業務提携契約を締結したことを5月13日に発表した。

今回の業務提携により介護施設に加え、企業・官公庁、学校、工場など幅広い法人クリーニング市場をターゲットとした多様なサービスメニューの開発を進める。